

2024年度
(令和6年度)

ふくしま子どもの心のケアセンター
活動報告書

一般社団法人 福島県子どもの発達支援協会
ふくしま子どもの心のケアセンター

ふくしま子どもの心のケアセンターの基本方針について

一般社団法人福島県子どもの発達支援協会

ふくしま子どもの心のケアセンター

センター長 内 山 登紀夫

本センターの支援方針は、東日本大震災後に福島県で行ってきた子どもたちへの支援活動を背景に構築されてまいりました。支援において大切にしている価値観は、親子への深い共感と敬意、地域の支援者との協働、そして高い専門性と臨床実践の重視です。当センターの臨床スタッフは、高度な臨床技術と知識の維持をしつつ、支援活動への関心と意欲を持ち続け、親子や他機関の支援者と連携・協力しながら、支援を行っています。

当センターでは、Bio-Psycho-Social（生物－心理－社会）モデルを支援の基本的な枠組みとしております。このモデルでは、「生物」は生まれつきの発達特性を、「心理」は、子どもと親の気持ちを大切にすること、「社会」は子どもを支える責任主体をそれぞれ意味します。社会には、家庭や保育所、認定こども園、幼稚園、児童発達支援センター、学校など、多様な支援者が含まれます。

Bio（生物）では子どもの発達特性を正確に把握し、親と地域の支援者に適切に情報を伝えることを重視しています。子どもへのアセスメントは Social(社会) の一部である保育所等のニーズを把握したうえで、保護者や家庭の状況、地域社会の資源なども含めて包括的に行います。アセスメント結果に基づく情報提供にあたっては、専門家が得た情報は保護者のものであるという認識を持ち、できる限り明確にお伝えすることを原則にしています。

Psycho（心理）では支援者の言動によって保護者や子どもが傷つくことのないよう、十分な配慮が必要です。過去に保護者が心を痛めたような表現や、子どもにとって過度な負担となる言葉がけは避けなければなりません。支援の場では、子どもの負担を減らす工夫、わかりやすい環境づくりを提案していきます。

◇目次

◆センターについて◆	1
I 乳幼児の発達支援	3
(1) 震災後の発達の気になる子どもとその保護者への支援	
(2) 地域の母子保健体制整備に関連するサポート	
II 家族支援	7
(1) 保護者支援プログラム	
(2) 県内話会・交流会（ままカフェ）	
(3) 県外話会・交流会	
(4) 山形市等への委託事業	
III 学校支援	13
(1) 心の健康相談会	
(2) 予防的心理教育プログラム「こころの授業」研修会	
(3) 学校巡回相談	
(4) 被災地の児童・生徒の精神衛生に関する調査（心の健康アンケート）	
IV 地域支援	19
(1) 地域巡回相談	
(2) 要保護児童対策地域協議会	
(3) 関係機関との連携	
(4) その他の地域支援	
V 支援者支援	21
(1) 主催研修会	
(2) 他機関研修会への講師派遣	
◆支援報告会◆	26
◇資料◇ リーフレット・チラシ	

▶ ふくしま子どもの心のケアセンター事業について

(1) 概要

福島県から事業委託を受けて令和6年4月から一般社団法人福島県子どもの発達支援協会がふくしま子どもの心のケアセンター事業を実施することになりました。

事業の実施にあたっては、福島県発達障がい者支援センター及び福島学院大学、市町村、関係機関・団体等と連携を図りながら、東日本大震災で被災した福島の子どもたちや家族への支援活動に取り組んでいます。

ふくしま子どもの心のケアセンター事業は、5つのカテゴリーに分けて実施しております。

I 乳幼児の発達支援

浜通りを中心に、震災後の避難等の影響により支援を必要とする親子について、地域と連携し、医師及び心理士や精神保健福祉士等が早期の発見と支援をサポートします。

II 家族支援

ペアレント・プログラム等の保護者支援に関するプログラムを実施希望する事業所への講師派遣協力を行います。また、保護者向けのグループや講演会などの協力も行います。

III 学校支援

避難に該当した地区を対象に、医師及び心理士や精神保健福祉士等が学校と連携して支援を行います。また、県内の教職員等を対象に、メンタルヘルス問題に関する予防的心理教育プログラム（こころの授業）の実施者養成講座や、学校へ訪問してのコンサルテーション等を実施します。

IV 地域支援

県内全域を対象に、地域の支援機関と連携しながら、必要に応じて医療支援や会議等への参加を行います。

V 支援者支援

子ども支援に関する研修会を主催し、支援者への支援を行います。その他、学校や事業所が企画する研修会への講師派遣を行います。

▶ センター職員・顧問

職 員

職 名	氏 名	雇用区分	職 種
センター長	内 山 登紀夫	非常勤	医 師
副センター長（総務担当）	本 田 邦 之	常 勤	事 務
副センター長（調査担当）	鈴 木 勝 昭	非常勤	医 師
副センター長（業務担当）	安 部 郁 子	非常勤	公認心理師
主任精神保健福祉士 兼 主任公認心理師	本 田 智 春	常 勤	精神保健福祉士 公認心理師
公認心理師	山 崎 鞠	常 勤	公認心理師
公認心理師	能 渡 綾 菜	常 勤	公認心理師
公認心理師	藁 谷 由美子	常 勤	公認心理師
公認心理師	仁 科 遼太郎	常 勤	公認心理師
事務担当	鈴 木 智 美	常 勤	事 務
公認心理師	川 島 慶 子	非常勤	公認心理師

顧 問

所 属	氏 名	職 名
東京医科大学精神医学分野 准教授	桒 屋 二 郎	医 師

▶ I 乳幼児の発達支援

(1) 震災後の発達の気になる子どもとその保護者への支援

<事業概要>

- ①相談会：東日本大震災後の原子力発電所の事故による影響を受けた地域における親子のメンタルヘルスに関する診察及び検査を実施し、地域の支援者と連携して支援を行いました。医師（児童精神科医）、心理士、精神保健福祉士等の専門職が現地の支援機関に赴き実施しました。
- ②コンサルテーション：原子力災害の影響を受けた地域のこども園等からの要請を受け、子どもの実態把握を行い、日々の保育や各子どもの発達に関する助言指導を行いました。

<医師派遣先一覧及び相談会対象児童数>

No.	日付	市町村（会場）	内容	担当医	参加者数		
					対象児童	保護者	地域の支援者
1	5/24	広野町（広野町保健センター）	相談会	内山先生	2	4	8
2	5/29	浪江町（ふれあい交流センター）	相談会	内山先生	1	2	3
3	6/14	大熊町（大熊町役場いわき出張所）	相談会	内山先生	2	4	3
4	6/28	富岡町（富岡町立にこにここども園）	コンサルテーション	内山先生	18	-	9
5	7/12	檜葉町（おおぞらこども園）	コンサルテーション	内山先生	24	-	12
6	7/18	葛尾村（葛尾村役場）	相談会	内山先生	※未実施		
7	8/1	双葉町（双葉町役場いわき支所）	相談会	内山先生	2	2	3
8	8/8	川内村（川内村役場）	相談会	内山先生	※未実施		
9	8/23	富岡町（富岡町保健センター）	相談会	内山先生	1	1	8
10	9/6	川内村（かわうち保育園）	コンサルテーション	内山先生	※未実施		
11	9/27	檜葉町（富岡町保健センター）	相談会	内山先生	2	2	6
12	10/4	広野町（広野町保健センター）	相談会	内山先生	2	3	9
13	12/6	富岡町（富岡町保健センター）	相談会	内山先生	2	3	14
14	12/12	双葉町（双葉町役場いわき支所）	相談会	榊屋先生	※未実施		
15	12/18	浪江町（いわき市総合保健福祉センター）	相談会	内山先生	2	3	6
16	1/24	広野町（広野こども園ひろばーく）	コンサルテーション	内山先生	21	-	12
17	1/31	葛尾村（葛尾村役場）	相談会	内山先生	※未実施		

18	2/13	楢葉町（いわき市総合保健福祉センター）	相談会	内山先生	2	3	7
19	2/20	大熊町（大熊町役場いわき出張所）	相談会	榊屋先生	1	2	6

① 相談会

（目的）

東日本大震災後の原子力発電所の事故による避難の影響で社会資源の不足及び母子保健体制の復旧途中である地域を対象として、子どもの発達支援をサポートすることを目的とし、児童精神科医師の派遣を行います。医師派遣の際には、当センターの心理職と相談員が同行します。事業の開催については市町村担当者を中心として会場準備等を行います。

本相談会は、子どもの検査や診断を目的とするものではなく、子どもの毎日の生活がより快適になることや親子の関わりがより円滑なものになるよう、どのような支援が必要かを保護者及び地域支援者が検討し共有することを目的とします。

（対象）

ケースの対象は、乳幼児健診等で発達の偏りや遅れなどが心配される子どもであり、保護者の本相談会の理解と同意の上、参加に至ります。地域によっては、学齢期の子どもが対象児として参加することもあります。

（参加者）

保護者の同意の上、こども園や学校の担任や主任先生が相談会や打合せに同席されることもあります。

（流れ）

例）対象 4 歳男児の場合。対象児は、避難先の 1 歳半健診で言葉の遅れが指摘され経過観察となりました。避難先の担当保健師から避難元町に健診後の申し送りがありました。その後、帰還して 3 歳児健診を受診しました。健診の問診時に母親から気持ちの切り替えの難しさやかんしゃくの対応が大変であるとの相談がありました。聴力に問題はみられなかったが、会話は成立しにくいところがあり、経過観察となりました。翌年 4 月からは、こども園入園となり、行事の参加の難しさやお友達とのトラブルが重なったことで、本相談会の利用について、園や担当保健師、その他地域支援者の間で検討されました。担当保健師が保護者に電話連絡し、現在の本児の日常生活の様子などを確認すると、保護者も困り感があることがわかり当相談会を案内し、現在の生活の困り感を相談することを勧めました。

その後、保健師が相談会の参加の有無を再度確認するため家庭訪問をしたところ、医師に相談することについて、母親は診断が出るのではないかと不安や心配がある様子でした。担当保健師は、検査や診断の目的について、本人の得意と不得意、発達の特性を知り本人にあった支援を行うために必要であることなどを説明しました。父親と相談して再度連絡することとなり、数日後、相談会利用希望と当日は両親で参加する旨、連絡がありました。

事前準備；2週間前まで

相談会の参加について保護者の同意を得ます。ケース概要（担当保健師）や保護者へのアンケート（保護者記入）、子どもの所属機関での様子（担任 等）に関する書類の準備を行います。

当 日

・事前カンファレンス；約 30 分

事前準備書類に加えて乳幼児健診時の所見なども含め、支援者全体でケース概要の確認を行います。相談支援事業所、基幹相談支援センター、発達障害者地域支援マネジャー、担任の先生などが参加する場合があります。必要に合わせて町村が調整を行います。

・相談；約 2 時間

医師が保護者の面接を行います。担当保健師と当センター専門員（ワーカー）が同席します。医師の指示の下、必要に合わせて当センター専門員（心理職）が対象児への検査等を実施します。

・事後カンファレンス；約 30 分

相談会の結果をもとに、地域の支援者と支援方針を検討します。

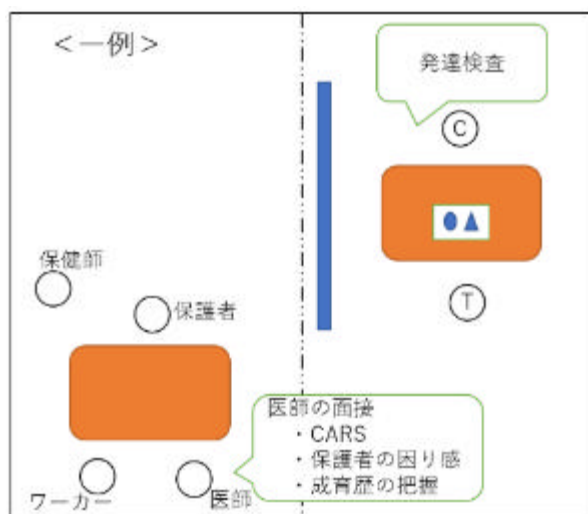
・結果説明；約 30 分

検査結果から得られた本児の発達の特性及び支援方法や暫定診断などについて医師と心理士が保護者に説明を行います。また、保護者の同意の下、担任の先生が同席し支援方法に関する情報を共有するとともに日々の関わりで疑問に感じている点を相談することもあります。

事後対応；約 2 か月後

検査結果を書面にまとめた心理所見を町村に郵送し、担当保健師が保護者と面接しながら相談会の結果や支援方針について確認します。療育の利用や医療機関の受診などにつながることもあります。

（会場；イメージ）



ケース対応については、「相談会につながる前の支援」と「相談会後の地域につなぐ支援」が重要です。地域の支援者の役割が非常に大きいです。

② コンサルテーション

(目的・対象)

東日本大震災後の原子力発電所の事故により療育機関などの福祉施設の復旧が十分ではない地域のこども園を対象とし、発達の偏りや遅れのある子どもを含むクラスの運営や子どもへの支援に関して担任の先生等に助言を行います。

(流れ)

事前準備

クラス単位の申し込みとします。クラスの名簿一覧と相談内容を申込書に記入いただき、対象児が年少児から年長児の場合には、申し込みのあったクラス全員に対する『保育・指導要録のための発達評価シート (TASP)』を実施します (担任記入)。

当日

相談支援事業所、基幹相談支援センター、発達障害者地域支援マネージャー、担任の先生などが参加する場合もあります。必要に合わせて町村が調整を行います。

- ・事前カンファレンス；約 20 分
- ・行動観察；約 1 時間
- ・事後カンファレンス；30 分
- ・全体カンファレンス；約 1 時間半

担任の先生に対して、実際の子どもの様子を踏まえ、質問事項に回答すると共に、参加者全体で支援について検討を行います。

(2) 地域の母子保健体制整備に関連するサポート

① 事業概要

市町村等が実施する乳幼児健診や相談会等において、被災した乳幼児及びその家族等への心の相談を行う場合に、臨床心理士等の専門職を派遣し支援します。本事業は「特定非営利活動法人ビーンズふくしま」に業務委託し実施しました。

② 実績 (2025 年 2 月末時点)

派遣事業名	回数	派遣人数
1.乳幼児健診への派遣 (被災地域への専門職派遣事業)	280 回	357 名
2.リフレッシュママクラス事業への派遣	11 回	28 名

※回数、派遣人数は全て延べ

▶ II 家族支援

(1) 保護者支援プログラム

① 事業概要

児童発達支援、放課後等デイサービス等の子ども支援に関わる施設と連携のもと、県内で子育てをすることへの悩みや子どもの発達に不安を抱える保護者等を対象に保護者支援プログラムとして、今年度はペアレント・プログラムについての講師派遣協力を行いました。

② ペアレント・プログラムとは

ペアレント・プログラム（以下、ペアプロ）は、応用行動分析に基づいたプログラムです。子どもや自分自身について「行動」で把握し、良い行動を具体的にほめることを行います。また、母親の子どもへの見方を変えるという認知の変容を重要視します。「障害」という言葉を使用しないこともあり、子育て支援に広く活用が可能です。

実施は1クール6回と終了後3カ月程度後に行われるフォローアップ回の全7回によって構成され、10名程度を目安とした保護者がペアでの話し合いなどに取り組みます。

③ 2024年度の実績

今年度の派遣実績は8か所（県北、県中2か所、県南、会津2か所、相双、いわき）であり、それぞれ1クールの実施でした。参加者数（参加申し込みをして、1クール中に1度以上参加した人数）を図2-1に示します。

図には、「保護者」と「支援者」の実数を示しているが、これはペアプロが保護者支援の場であると同時に、子ども支援に関わる支援者も参加することで、ペアプロのポイントを理解し、日々の支援のための研鑽の場とする目的も兼ねているためです。

全か所を合計すると、ペアプロの参加者は保護者65名、支援者62名でした。

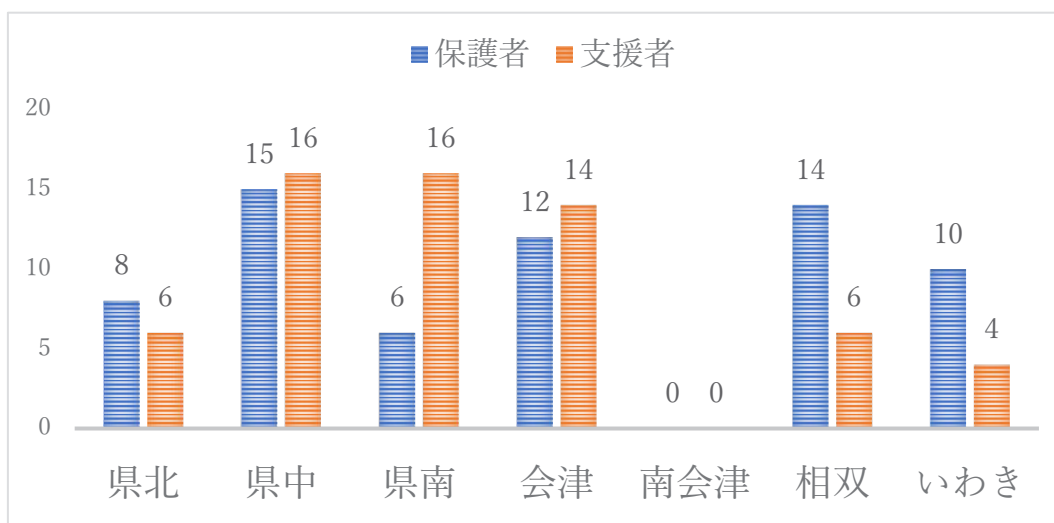


図 2-1 ペアプロの地区別参加者数（実数）

④ 参加者の感想（一部を抜粋）

- ・ 文字で書きだしてみて、改めてできていること、困っていること等、わかりやすく分類することができました。ギリギリセーフ行動も見つけることができ、参加してとても良かったです。
- ・ ほめることもできる時とできない時があるけれど、お互い機嫌よく過ごせる努力を常に意識して子育てをしていきたいと思いました。
- ・ いろいろな視点があることに気付くことができました。自分で自分のあるべき姿を決めて、それに縛られていたということに気が付きました。
- ・ 現状把握表に書くこと、そして皆と意見を交換する事はとても有意義な時間でした。救われたこともたくさんありました。ありがとうございました。
- ・ 回をかさねていくことで、気持ちが軽くなりました。ギリギリセーフを知ったことで考え方を少し変えることができました。デンジャラス〇〇では自分が気になる傾向がわかってきたような気がします。



(2) 県内話会・交流会（ままカフェ）

① 事業概要

東日本大震災で被災した県内の親子の集いの場として「ままカフェ」を各地域で定期的に開催し、子育て支援を行いました。母親の仲間づくりや子どもの支援ニーズ把握等の場としての役割を担いました。本事業は「特定非営利活動法人ビーンズふくしま」に業務委託し実施しています。

② 実績（2025 年 2 月末時点）

地域	回数	参加者	
		母親	初参加
ままカフェ@ふくしま (会場：コラッセふくしま、福島市保健福祉センター、 福島県青少年会館)	11 回	99 名	60 名
ままカフェ@こおりやま (会場：NPO 法人子育て支援コミュニティ プチママン)	11 回	28 名	14 名
ままカフェ@けんなん (会場：石川町モトガッコ、浅川町保健センター)	6 回	72 名	29 名
ままカフェ@いわき (会場：一般社団法人 Wendy いわき)	8 回	78 名	65 名
ままカフェ@みなみそうま (会場：原町保健センター、小高交流センター)	5 回	48 名	26 名
ままカフェ@ふたばぐん (会場：浪江町幾世橋防災コミュニティセンター、富岡町 総合福祉センター、みんなの交流会ならは CANvas)	4 回	45 名	19 名
ままカフェ@二本松 (会場：福島県男女共生センター)	9 回	31 名	13 名
合計	54 回	401 名	226 名

③ 参加者の感想（一部を抜粋）と実施の様子



- ・悩みを聞いていただいて心が軽くなりました。ありがとうございました。（南相馬市）
- ・引っ越しをしてきたばかりで知り合いがいなかったのですが、郡山の情報が知ることができ、ママさん達とお話できて良かったです。（郡山市）
- ・子どもが少しずつ離れてくれるようになったので、お茶を飲みながらゆっくりお話ができて楽しかったです。（石川町）

- ・久しぶりに家族以外の大人の人と話すことができて楽しかったです。（二本松市）
- ・身近なテーマで、少人数で気軽に発言できるのが良かったです。（いわき市）
- ・困りごとの共有ができて、うちだけではなかったとほっとしました。（双葉郡）
- ・皆さんが親切で、大人と話せてリフレッシュができました。他のママ達も頑張っているなど共感できとても良かったです。明日からまた頑張れそうです。（福島市）



（3）県外話会・交流会

① 事業概要

東日本大震災で被災し、県外に避難し子育てをしている人を対象に、県外での子育てについての思いや悩みなどを共有する集いの場として県外で話会・交流会を開催しました。また、連携団体と共に、親子が避難先でも孤立しないよう、相談を受けたり情報提供を行ったりしました。本事業は「特定非営利活動法人ビーンズふくしま」に業務委託し実施しています。

② 実績

・県外交流会（2024年2月末時点）

地域	実施回数	参加人数 (親子計)
宮城県：一般社団法人マザー・ウイング	11回	92名
東京都：NPO法人こどもプロジェクト	9回	42名
NPO法人こどもプロジェクト	9回	38名
その他団体への協力	9回	125名

・会議等への参加・協力

参加回数：3回

対象者：138名

③ 参加者の感想（一部を抜粋）と実施の様子

- ・子どもの進学についての話ができてありがたかったです。（東京都）
- ・いわき市に住んでいる高齢の親の体調が心配です。最近は頻繁に帰っています。（東京都）
- ・家のことや仕事と忙しい毎日だが、交流会に行くとほっと安心ができます。（埼玉県）
- ・避難者同士だと安心して話しができ、元気できます。（埼玉県）



- ・皆さんが福島県出身と同郷なので安心して話すことができます。（仙台市）
- ・浪江町出身なので今の浪江町のことを教えていただき、先日子どもを連れて遊びにきました。（仙台市）
- ・来年子どもの高校受験を機に福島市へ帰還予定。受験の情報を詳しく知ることができ、帰還する地域の様子が知れて良かったです。（新潟市）

(4) 山形市等への委託事業

① 事業概要

山形県に避難している被災児童及び保護者を支援するため、山形市及び yama_colon labo に支援業務を委託しました。

山形市では、避難者交流支援センターを設置し、専門スタッフによる相談支援や、児童及び保護者間の交流を図りました。

また、yama_colon labo は、アロマテラピー等の自然療法を用いたセルフケアや地域文化を学習する講習会を開催し、心身のリフレッシュを図るとともに、地域の人たちとの交流を行いました。

② 実績

- i 山形市避難者親子交流事業（山形市委託）
交流会等を毎週開催し、277名参加（2月末現在）。
- ii 山形県への避難家族を対象とするストレスケア事業（yama_colon labo 委託）
8月から講習会を6回開催し、児童及び保護者は33名参加。

③ 事業実施の様子



III 学校支援

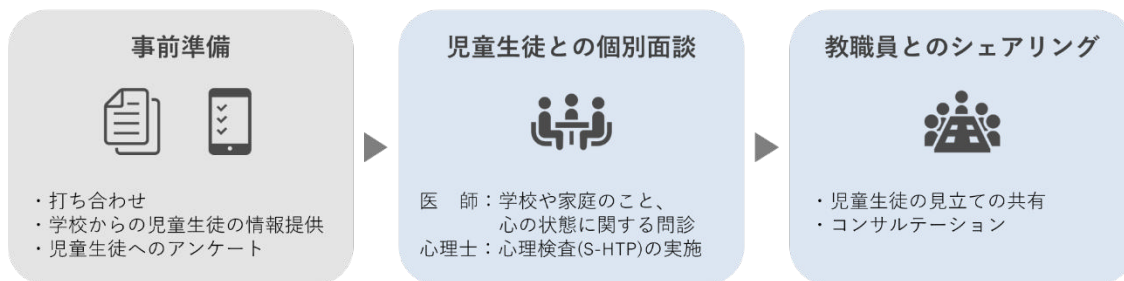
(1) 心の健康相談会

① 事業概要

原発事故の原発避難の影響を受けた地域に所在する学校を対象として、在籍する児童生徒への支援を行いました。

児童生徒に関する学校からの情報や、心の健康アンケートで得られた結果をふまえながら、医師（精神科医）と心理士が児童生徒との個別の面談を実施しました。その中で語られた児童生徒が感じている不安や心配に関して対処法などの助言を行うとともに、学校と情報を共有して児童生徒支援の充実を図りました。

心の健康相談会 当日



② 実績

該当校での面談実施概要

校種	児童生徒数									実施 日数	スタッフ	
	小学校						中学校				医師	心理士
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年			
A小学校	4名	1名	3名	5名		1名				3日	3名	6名
B小学校			11名							1日	1名	3名
C中学校							8名	1名	2名	3日	3名	11名

■ は悉皆実施の学年

2024 年度の心の健康相談会は 3 校で実施され、計 7 日開催されました。当日派遣されたスタッフの延べ人数は、医師 7 名、心理士 20 名でした。

特定の学年や転校生を対象に面談を行いました。

③ 実施時の様子

当日は、各ブースに児童生徒を振り分け、医師と心理士、ないしは心理士のペアで面談にあたりました。

スケジュールの例

	ブース 1 D 医師・E 心理士	ブース 2 F 心理士・G 心理士
1 校時	会場設営、打ち合わせ	
2 校時	児童 H	児童 I
3 校時	児童 J	児童 K
4 校時	児童 L	児童 M
5 校時	児童 N	児童 O
6 校時	児童 P	児童 Q
放課後	シェアリング	

児童生徒との面接では、学習や友人関係のこと、受験に対する不安などが語られました。面談後のシェアリングの時間では、医師および心理士より、担当した児童生徒の見立てを学校と共有しました。共有の際、担任の先生や、管理職の先生から、児童生徒の様子や関わり方について具体的な質問もあげられました。また、SC や SSW の先生にも同席いただき、教職員と医師、心理士、精神保健福祉士といった専門職が協力し合いながら、避難地区該当学校の児童生徒の心配事や対処法を共有する機会となりました。

(2) 予防的心理教育プログラム：「こころの授業」研修会

① 事業概要

より多くの学校で予防的心理教育プログラム（以下、こころの授業）を実施いただくことを目的に、教職員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどを対象とした研修会を行いました。

② 実績

参加者：南相馬会場 13 名、福島会場 26 名、郡山会場 21 名

テーマ：「こころの授業 Unit. 1 自己肯定感を高める、気持ちの切り替え方法を学ぶ」

「こころの授業 Unit. 2 感情のコントロール、アサーション」

研修会当日の流れ

10:00～10:05	開会式・オリエンテーション
10:05～12:30	こころの授業の目的・内容・ポイントの講義 講師による授業実演
12:30～14:00	昼食休憩・グループ練習
14:00～15:50	デモンストレーション（授業のシナリオをもとに実施）
15:50～16:00	修了式・プログラム実施に関するお願い

③ 研修会の様子



参加者の感想

- ・ アンガーマネジメントやアサーティブの理論を子供達にどうわかりやすく伝えていくか、という点で大変参考になりました。
- ・ 同じ内容で他の方がされる授業を一度にこんなにたくさん見る機会は無いので、他の受講者から学ぶことがたくさんあり、とても勉強になりました。

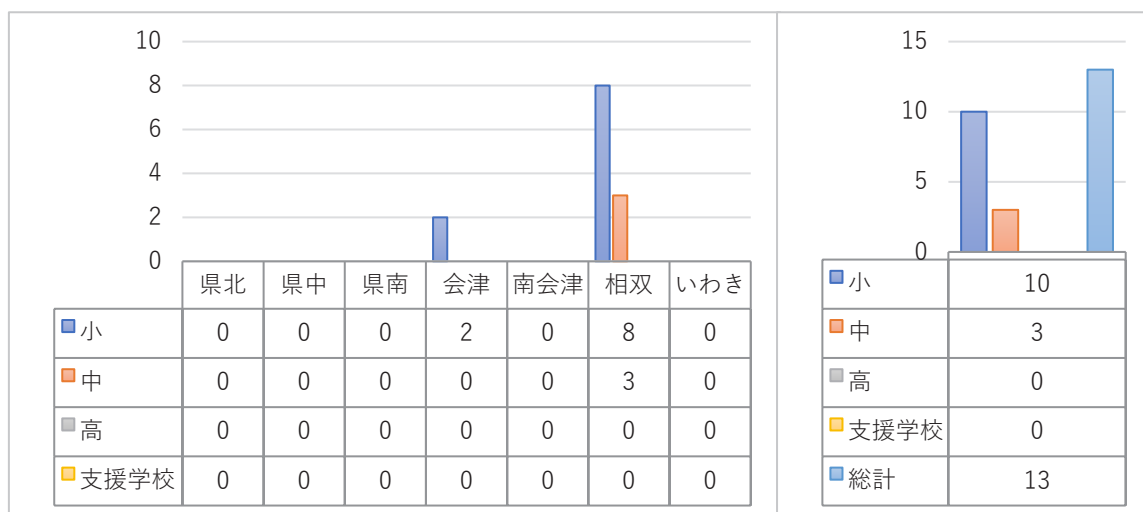
(3) 学校巡回相談

① 事業概要

申し込みがあった県内の学校に医師、心理士、精神保健福祉士が訪問し、対象児童生徒やその保護者との面談、授業観察、心理アセスメント（心理検査）等を行いました。また、必要な支援について、教職員とのコンサルテーションを実施しました。

② 実績

訪問回数（延べ）



2024 年度は小学校に 10 回、中学校に 3 回、高等学校に 0 回、支援学校に 0 回、合計で 13 回（全て延べ回数）、巡回相談を実施しました。

③ 学校巡回相談の様子

2024 年度は原発避難の影響を受けた地域の学校も含めて、医師、心理士、精神保健福祉士がチームとなって学校を訪問しました。

避難該当地域にある学校での巡回相談では、帰還後、気になる児童生徒の行動観察や、児童生徒との面談、学校の先生方やスクールソーシャルワーカーとの情報共有、およびコンサルテーションが主な内容となり、ケースによっては児童生徒の保護者との面談も行いました。

一例をあげれば、授業中に落ち着かないような行動が見られる子どもへの関わり方に悩んでいる教員や保護者に対して、学校生活の状況と巡回相談での見立ての共有を行い、医療機関につながる必要性や普段の関わり方などについて検討しました。また、心の健康相談会のアフターフォローとして、心の健康相談会で面談を行った児童生徒の経過観察やコンサルテーションを行うケースもありました。

(4) 被災地の児童・生徒の精神衛生に関する調査（心の健康アンケート）

① 事業概要

福島県からの委託を受け、相双教育事務所の協力のもと、被災による児童生徒への教育的・臨床的支援を目的とした心の健康アンケートを実施しました。対象は、相双教育事務所管内の小中学校、義務教育学校に在籍する小学3年生から中学3年生としました。

実施の際には、各学校に配布されているタブレットを活用し、QRコードを読み取り Web上のアンケートフォームによって回答を得る形式としました。

アンケートの項目

- ① 心の元気さ（例：楽しみにしていることがたくさんある）
- ② やさしさ（例：私は、年下の子どもたちに対してやさしくしている）
- ③ イライラ（例：たたかれたり、けられたりしたら必ずやり返す）
- ④ 生活習慣（起床・睡眠時間、遊びについての質問）

② 実績

アンケートを実施した学校数と児童生徒数

種類	校数
小学校	28
中学校	18
義務教育学校	3
合計	49

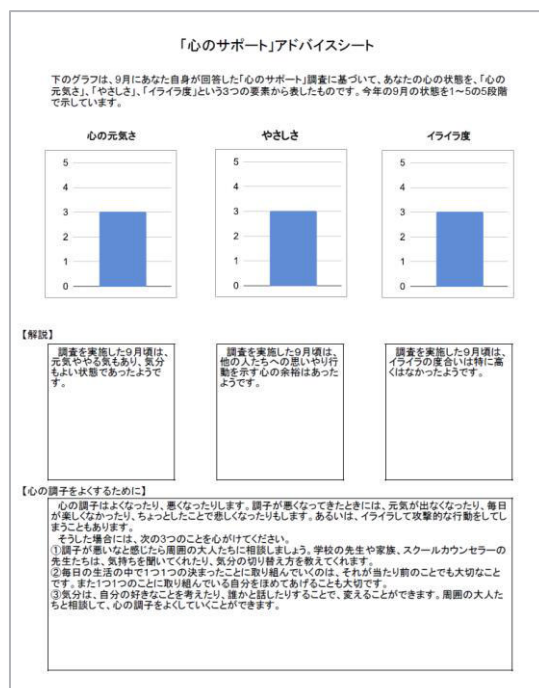
種類	学年	人数
小学校	3年生	732
	4年生	748
	5年生	750
	6年生	665
中学校	1年生	728
	2年生	744
	3年生	823
義務教育学校	3年生	28
	4年生	22
	5年生	17
	6年生	17
	7年生	22
	8年生	21
	9年生	11
合計		5,328

③ 結果

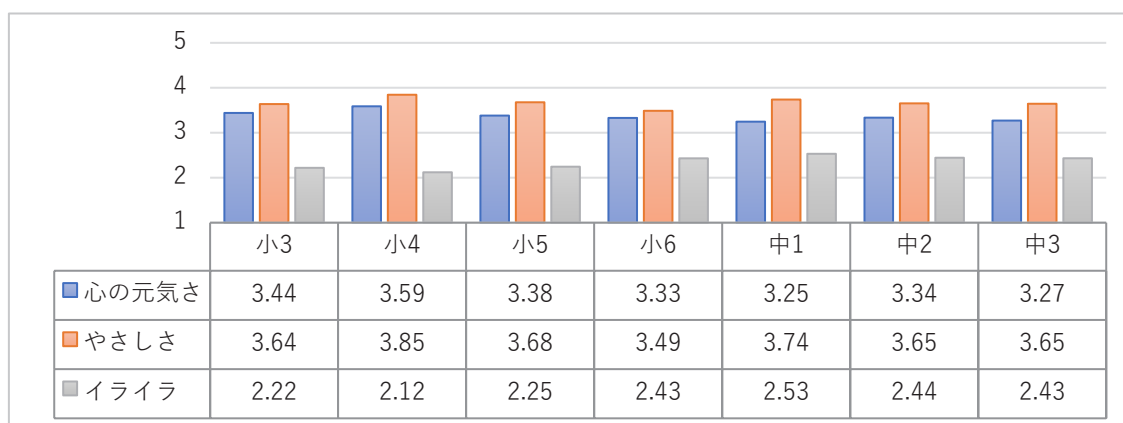
アンケートの結果は、『心のサポートアドバイスシート』という個票で学校に返却しました。

教育相談やカウンセリング等の場で、児童生徒の心の健康について相談する際の資料としたり、学校を通して保護者の皆様に個票を返却することで活用いただきました。また、昨年度と今年度のアンケート結果の個人の変化を比較できるよう、『アンケート結果比較ツール』（Excel）を各学校に配布しました。

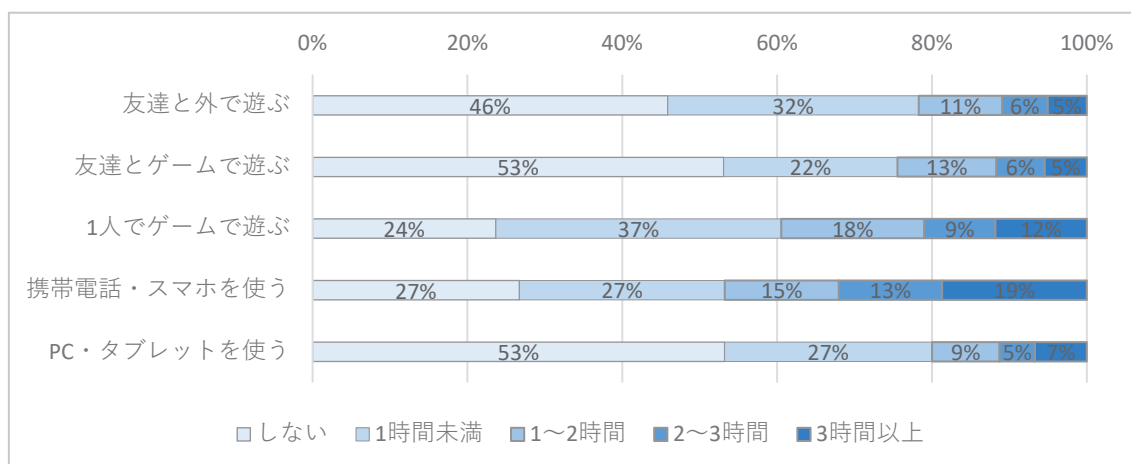
心の健康相談会や学校巡回相談においても、アンケート結果を活用し、面談やコンサルテーションを行いました。



学年別平均得点の結果



生活習慣（平日の遊びに関する過ごし方）の結果



▶ IV 地域支援

(1) 地域巡回相談

① 事業概要

県内の子どもに関わる施設と連携し、行動観察やコンサルテーション、保護者との面接などを通して地域での巡回相談を実施しました。（※学校に関する巡回相談は「III 学校支援」を参照）

② 実績

- ・福祉事業所へのコンサルテーション：6回
- ・行政相談会への協力：21回

③ 実施の様子

県内で児童発達支援を行っている福祉事業所より依頼を受け、コンサルテーションを実施しました。これまでの支援状況と子どもの行動観察からアセスメントを実施し、事業所スタッフと共に、支援の方向性について検討しました。その上で、特性に応じた具体的な支援方法や関係機関との連携、家族への支援等について助言を行いました。

(2) 要保護児童対策地域協議会

① 事業概要

震災後に虐待件数が増加している現状を踏まえ、県内の要保護児童対策地域協議会からの依頼を受けて協議会への参加等の協力を行いました。

② 実績

参加回数：6回

(3) 関係機関との連携

① 事業概要

県内の支援のためのネットワークを構築するため、福島の復興支援に関わる情報交換会や会議等への参加を行いました。

② 実績

- ・第一回地域支援チーム戦略・連携会議：1回
- ・双葉郡の子ども支援に関する事業の説明会：1回

(4) その他の地域支援

① 事業概要

県内の子ども支援に関わる支援者の希望のもと、個別スーパーバイズや、各種事業への参加・見学（子どもの発達支援への医師の陪席など）を通して、支援者の研鑽の機会を作りました。

② 実績

- ・ ケースに関する個別 SV：6 回
- ・ ふたば教室：6 回
- ・ 相双保健福祉事務所いわき出張所あそびの教室：8 回
- ・ 福島大学大学院心理実践実習受入：2 名
- ・ 福島学院大学公認心理師実習受入：9 名
- ・ 乳幼児の発達支援への陪席：3 回

▷ V 支援者支援

(1) 主催研修会

子ども支援を行っている支援者に対し、スキルアップや指導者の育成を目的とした研修会を開催しました。

① 子どもの運動遊び支援者スキルアップ研修会

- ・参加者：17名
- ・会場：二本松市城山第二体育館

幼稚園教諭、保育士、子育て支援センター職員等を対象に、支援者のスキルアップを図ることを目的として開催。乳幼児期における「運動」「運動遊び」の必要性を学び、室内や親子で行う運動遊びの実技を通して学びました。一つひとつの動きの目的や動きを通して見えてくる発達状況の確認、運動が嫌いにならない言葉かけの工夫などすぐに実践できる内容で行いました。

【参加者の感想】

- ・子どもの運動機能のどこに注目するのか、どう関わるのかなど、具体的で実践的に学ぶことができました。身近なもので作れる道具も紹介頂きまして、運動遊びのマンネリ化解消にもなりそうです。また、子どもたちで準備や片付けできるような設定や声掛けが、認知機能や行動面への向上につながることも学ぶことができました。
- ・実際に自分で体を動かし、こども達と遊ぶ想像をしながら楽しむことができました。1歳児担任ですが、早速保育に取り入れていきたいと思います。



② CAP スペシャリスト養成講座（5 日）

- ・基礎編参加者：11 人
- ・実践編参加者：9 人
- ・会場：須賀川市労働福祉会館・郡山市セルフミーティングルーム虎丸

子どもに関わる全てのおとなを対象に、暴力防止の専門家（CAP スペシャリスト）を養成することを目的として一般社団法人 J-CAPTA と共催で開催。児童虐待の歴史や関連法律、子どもの人権について学ぶとともに、地域で行われているワークショップの目的や流れを学びました。実践編では児童相談所の役割と機能についての講義を受け、地域で行われているワークショップの演習を行いました。

【参加者の感想】

- ・“安心、自信、自由”を核としつつそれに対する具体的な内容まで詳細に解説いただき、自分の中の感覚が少しバージョンアップできた気がします。子どもの権利とシンプルな3つの言葉をすえて伝えていることが興味深かったです。
- ・CAP の言葉で伝えるということが印象に残りました。シナリオを頭に入れつつ、子どもたちの生の声に答える柔軟さも必要になるので実践されてる方はすごいなと思いました。

③ 子どものための PFA 研修会

- ・参加者：16 名
- ・会場：郡山ユラックス熱海

子どもの支援、子育て支援に携わっている方を対象に人材育成を目的として開催。公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン協力のもと、地震や事故などの危機的な出来事に直面した子どもたちのこころを傷つけずに対応するためのスキル（支援者が共通して身に付けておくべき心構えと対応）について学びました。

【参加者の感想】

- ・これまで勤務している中で、災害等などの危機的な状況でどのような支援を行ったらよいのか、といったことがあまり明確になっていませんでした。今回の研修を受けて、発達段階でのストレス反応や PFA の行動原則を学び、研修を受ける前より理解を深めることができました。また PFA を学校現場でも共通理解を図っておくことで、実際に PFA を提供する場面になった際には、支援を必要とする子どもへ支援を行えるのではないかと感じました。
- ・ストレスを表に出せる人と出せず心の中で押し込めてしまう人と多数分かれると思うため、様子を見ながら声をかけてサポートをしていきたい。



④ セカンドステップ講演会

- ・参加者：30名
- ・会場：けんしん郡山文化センター

「子どもが加害者にならないためのプログラム」であるセカンドステップを広く普及することを目的として講演会を開催。実際の教材を使用しながらセカンドステップのねらいや効果を紹介しました。

【参加者の感想】

- ・セカンドステップというプログラムがあることを初めて知ったので、どのようなものか知ることができて良かったです。自分の気持ちや人の気持ちを考えたり、どう行動すればよいか知ったりする授業は必要だと改めて思いました。実際にカードなど使ってやっていただいたのですが、断片的だったので、一コマを初めから最後まで見てみたいな、と思いました。



⑤ 親と子どものふくふくトレーニングトレーナー養成研修（3日）

- ・参加者：13名
- ・会場：福島県男女共生センター

行動療法の理論背景をもとに、子どもの問題行動を減らし、望ましい行動を効果的にしつけられるスキルを体得するプログラムを体験を通して学び、養育者や子ども支援に関わる仕

事をしている支援者に伝えるトレーナーを養成することを目的として開催。各セッションについて、講義とロールプレイを通して最終日にはトレーナーとして模擬セッションを行いました。

【参加者の感想】

- ・ふくトレだけでなく、今後の子育てにも、仕事にも、人付き合いにも役立つような内容が多かったので、忘れないように、どんどん使っていきたいと思います。そして、今回学んだふくトレをできるだけ広めていきたいと思います。
- ・マニュアルに沿って理論の理解にのみとどまることなく、実際にトレーナーや保護者の役割をやってみながら（ロールプレイ）研修できたことが、よりリアルで実際の場面で対処できそうな気持ちになりました。様々な方々の御意見や反応も自分にはなかった考えを共有でき、より広げ深めることができました。たくさんもっていたいと思った。



⑥ 県外支援者研修会

- ・参加者：7名

県外避難者を支援している団体（ままカフェや親子サロン、相談会の開催等）との連携や、支援者のスキルアップを目的として研修会を開催。「親のメンタルヘルス」について当センターより報告し、その後支援団体との意見交換を行いました。

※オンライン（zoom）で開催。

⑦ PEP-3 一日研修会

- ・参加者：11名
- ・会場：福島市男女共同参画センター ウィズ・もともち

県内の専門職を対象に、自閉症・発達障害児教育診断検査（日本版 PEP-3）によるアセスメントのスキルアップを目的として研修会を開催。行動観察の視点を学び、実際の検査場面の映像を見ながら評価を行いました。

(2) 他機関研修会への講師派遣

① 事業概要

他機関から、当センターに講演会・研修会の講師依頼があり実施しました。

② 実績

- ・教育機関：6回
- ・行政機関：4回
- ・福祉事業所：2回
- ・その他：1回

▶ 東日本大震災後の浜通りの子どもたちへの支援報告会

① 概 要

「“未来”へのつながる支援のために」と題し、これまでの当センターの取り組みについて報告するとともに、浜通りの子どもたちの“未来”につながる支援について地域の関係機関の方々と意見交換を行いました。

② 主 催

福島県、一般社団法人福島県子どもの発達支援協会

③ 日 時

2025年3月23日（日）13:00～16:30

④ 会 場

杉妻会館「百合」（福島市）

⑤ 参加者 70名

⑥ 内 容

第一部 浜通りの子どもたちへの支援の取り組み

◇福島県のこれまでの子どもたちへの支援について

福島県保健福祉部こどもの未来局児童家庭課 熊 坂 和 美 主幹

◇乳幼児から学齢期の発達のための支援について 内 山 登紀夫

◇学齢期の発達支援 ～学校支援～ 鈴 木 勝 昭

第二部 シンポジウム“未来”へつながる支援のために

◇コーディネーター 安 部 郁 子

◇パネリスト

富岡町立富岡小学校長・中学校長 武 内 雅 之 氏

富岡町福祉課子育て支援係保健師 児 島 大 寛 氏

基幹相談支援センターふたばセンター長 遠 藤 隼 人 氏

児童発達支援センターわくわくキッズ管理者 新 妻 陽 子 氏

ふくしま子どもの心のケアセンター

主任精神保健福祉士・主任公認心理師 本 田 智 春

◇コメンテーター

公立大学法人福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座教授

ふくしま心のケアセンター所長 前 田 正 治 氏

ふくしま子どもの心のケアセンター・センター長 内 山 登紀夫

資 料

◇ふくしま子どもの心のケアセンター・リーフレット◇

◇研修会等チラシ◇

ふくしま子どもの 心のケアセンター の概要

福島県から事業委託を受け、
当協会の親と子のサポートセン
ターふくしま内に「ふくしま子
どもの心のケアセンター」を設
置いたしました。

ふくしま子どもの心のケアセ
ンターでは、東日本大震災後の
福島の子どもの総合的な心のケ
ア対策に取り組むとともに、子
どもに関わる支援者の人材育成
などを行います。

ふくしま
子どもの
心のケアセンター

一般社団法人 福島県子どもの発達支援協会
親と子のサポートセンターふくしま

住所：〒960-8505
福島市本町2-10
(福島学院大学駅前キャンパス4階)

e-mail：info@oyakoko-f.org

TEL：024-524-0005

FAX：024-524-0006



ホームページはこちら↓
<https://oyakoko-f.org>



※事業や研修会情報などをお知らせしています。

事業内容 ～5つの柱～



< 乳幼児の発達支援 >

●事業内容

浜通りを中心に、震災後の避難等の影響により
支援を必要とする親子について、地域と連携
し、医師及び心理士が早期の発見と支援をサポ
ートします。

- ・震災後の発達の気になる子どもと
その保護者への支援
- ・地域の母子保健体制整備に関連する
サポート

…など

< 家族支援 >

●事業内容

ペアレント・プログラム等の保護者支援に関す
るプログラムを実施希望する事業所への講師派
遣協力を行います。

- ・ペアレント・プログラム
- ・親と子どものふくふくトレーニング
- ・ままカフェ（県内・県外）

…など

< 学校支援 >

●事業内容

県内各地で、予防的心理教育プログラム『ここ
ろの授業』の実施者養成研修会を行います。学
校への巡回相談も実施しております。

- ・予防的心理教育プログラム
『こころの授業』実施者養成研修会
- ・巡回相談

…など

< 地域支援 >

●事業内容

県内全域を対象に、地域の支援機関と連携しな
がら、必要に応じて医療支援や会議等への参加
を行います。

- ・地域連携会議等への参加
- ・要保護児童対策地域協議会への協力
- ・福島県発達障がい者支援センターと
の連携

…など

< 支援者支援 >

●事業内容

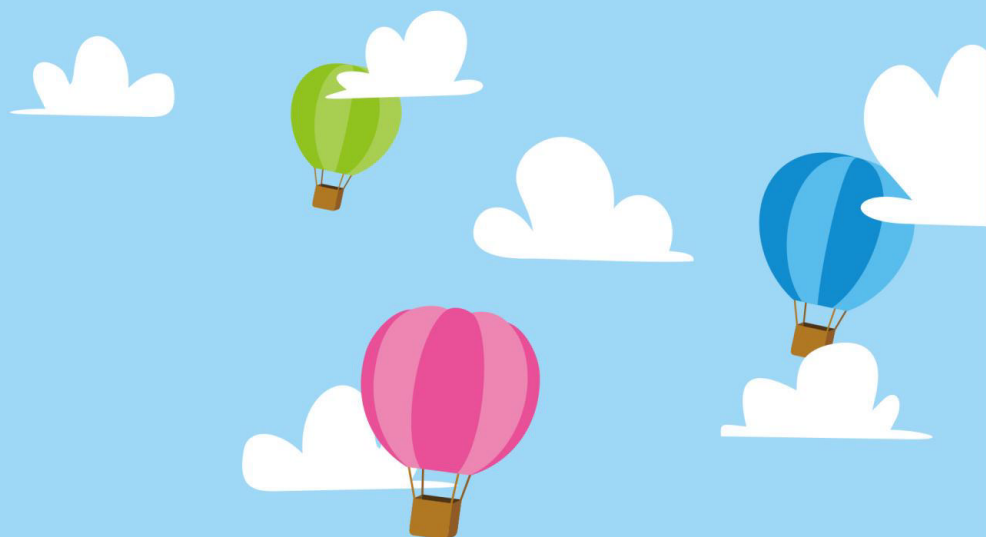
子ども支援に関する研修会を主催し、支援者支
援を行います。

< 主催研修会の例 >

- ・災害時心のケア支援力養成講座
(サイコロジカル・ファースト・エイド)
- ・子どもの運動遊び指導者
スキルアップ研修会
- ・セカンドステップ研修会
- ・親と子どものふくふくトレーニング
指導者養成講座
- ・CAPスペシャリスト養成講座
- ・県外支援者研修会

…など

※その他、学校や事業所が企画する
研修会への講師派遣を行います。



すぐ始められる授業のシナリオ付き

「こころの授業」の研修会

7月26日(金)

10:00~16:00

南相馬市民文化会館(ゆめはっと)

内容: Unit 1

7月29日(月)

10:00~16:00

福島学院大学駅前キャンパス

内容: Unit 2

8月5日(月)

10:00~16:00

郡山ユラックス熱海

内容: Unit 2

● 「こころの授業」は…

- 震災直後から福島の子どもの支援として、県内の小、中、高等学校、支援学校で行われてきました。問題が起こってから対処するのではなく、「こころの回復力・生活の中の対処能力を向上させ、安定を図る」ことを目的とする予防的プログラムです。本研修では、進め方や実施のポイントなどを講義とロールプレイを通して学び、学校などの場面ですぐに実施していただける内容となっております。

Unit 1: 自己肯定感を高める・気持ちの切り替え
自分ができていることを見直し自己肯定感を高める・自身でできる気持ちの切り替え方を知る

Unit 2: 感情のコントロール・アサーション
自他の違いや自身の抱く感情に気づき、自他を大切にしたい考え方や表現方法を身に付ける

お問い合わせは

一般社団法人 福島県子どもの発達支援協会
親と子のサポートセンターふくしま
ふくしま子どもの心のケアセンター

TEL 024-524-0005

受付時間: 9:00~17:00 (担当: 本田)

参加費: 無料
定員: 各30名

2024

子どもの運動遊び 指導者スキルアップ研修会

～乳幼児期の運動遊びを学びましょう～

日時

令和6年9月14日（土） 9：30～11：30

場所

二本松市城山第二体育館

対象

保育士、幼稚園教諭、保健師等

講師

福島新体操クラブ代表 水戸真由子先生

内容

「ビガーボール」（薄手の柔らかいボール）を使った運動遊びなど

★ビガーボールはお持ち帰りいただけます

★上履きご持参の上、動きやすい服装でお越しください

参加費無料

定員30名

保育場面や親子の運動遊びに取り入れて頂けるよう、実技を通して学ぶ研修会です

参加者の声
「子どもの興味の引き出し方や声のかけ方を楽しく学ぶことができました」

参加者の声
「すぐに実践できるものばかり、園で試したいと思います」

お申込み方法は裏面をご覧ください

一般社団法人 福島県子どもの発達支援協会
親と子のサポートセンターふくしま



お問合せ：024-524-0005（担当：藁谷）

※この事業は「ふくしま子どもの心のケアセンター事業」として福島県より委託を受け実施します

子どもへの暴力防止の 知識とスキルを学ぶ基礎講座

子どもたちに
いじめや誘拐、虐待、性暴力などの
あらゆる暴力から
自分を守るためのプログラムを
小学校で実施する
子どもへの暴力防止の専門家を養成



キャップ CAPスペシャリスト養成講座 in 須賀川

日 時 基礎編 2024 年 9 月 27 日 (金)・28 日 (土)・29 日 (日) -計 24 時間-
(1 日目 10:00~18:00/2 日目 9:15~17:15/3 日目 9:15~17:15)

実践編 2024 年 10 月 26 日 (土)・27 日 (日) -計 16 時間-
(1 日目 10:00~18:00/2 日目 9:15~17:15)

場 所 須賀川市労働福祉会館 (福島県須賀川市茶畑 65/ 0248-76-1991)

CAP とは、Child Assault Prevention (子どもへの暴力防止) の略で、子どもたちがいじめ、痴漢、誘拐、虐待、性暴力といったさまざまな暴力から自分を守るた

めの教育プログラムです。この講座は CAP プログラムを実践する暴力防止の専門家 (CAP スペシャリスト) を養成する講座です。

子どもへの虐待や暴力についての基礎的な知識やスキルを学べる講座ですので、どなたでもご参加できます。子どもに関わる全てのおとな (親、教師、保育士、保健師、電話相談員、カウンセラー、子ども会のリーダー、学童保育や子ども食堂のスタッフ、児童福祉施設・児童相談所のスタッフ、行政職員……) に受講していただき、CAP の理解者と実践者として、共に子どもの人権が尊重される社会を創る仲間になってください。

【対 象】福島県にお住まいで CAP に関心のあるすべてのおとな (18 歳以上) 【定 員】40 人

【講 師】J-CAPTA トレーナー (基礎編) 矢島 宏美・白土 希 (実践編) 太田 美津子

※J-CAPTA は CAP プログラムの使用に関する権限をもつ日本の CAP トレーニングセンターです。

【受講料】福島県の方は無料 *テキスト代 4,400 円

【申込み】受講申込書に必要事項を記入の上、メールまたは FAX でお送りください (申込締切: 9 月 17 日)

※先着順にて受付け、定員になり次第締切ります。9/6 より受講確定書をお送りします。

主催 ジェイ キャプタ 一般社団法人 J-CAPTA (Japan CAP Training & Action)

問い合わせ・申込み TEL 090-2876-9429/FAX 011-666-8517

総合インフォメーション j-capta@j-capta.org ホームページ <http://j-capta.org>

協力: CAP こおりやま (080-5555-3491)

※この事業は「ふくしま子どもの心のケアセンター事業」として一般社団法人福島県子どもの発達支援協会 親と子のサポートセンターふくしまの委託により実施しています。

子どものための 心理的応急処置研修会

Psychological First Aid for Children

2024年

11月9日(土)

日時

10:00~17:00 (受付9:30~)

会場

郡山ユラックス熱海
第2・3小会議室

参加費
無料

定員30名

子どものためのPFAとは

災害時などに、ストレスを抱えた子どもや親・養育者の心を傷つけずに対応するためのスキルです。世界保健機関（WHO）などが作成したPFAマニュアルをもとに、セーブ・ザ・チルドレンが2013年に開発しました。

子どもの認知発達段階の特性や年齢に合わせて、誰にでもできるこころの応急手当です。

研修内容

STEP1

- ・はじめに
- ・子どものためのPFAとは
- ・危機的状況下で子どもが示す反応



STEP2

- ・PFAを必要とする子どもの見極め方とストレスを抱えている子どもとの最初のコンタクトの取り方
- ・コミュニケーションのポイント



STEP3

- ・ロールプレイ
- ・まとめ



お申し込み方法は裏面をご覧ください

お問い合わせ

一般社団法人 福島県子どもの発達支援協会
親と子のサポートセンターふくしま

TEL: 024-524-0005 (担当: 仁科)

FAX: 024-524-0006

この事業は「ふくしま子どもの心のケアセンター事業」として福島県から委託を受け実施します

協力: 公益財団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

いじめをしない、させない子を育てる

セカンドステップ

無料講演会



セカンドステップとは…

米国で開発された、子どもが加害者にならないためのプログラムです。「**キレイな子どもを育てよう**」を合言葉に、子どもが幼児期に集団の中で社会的スキルを身につけ、さまざまな場面で自分の感情を言葉で表現し、**対人関係や問題を解決する能力**と**怒りや衝動をコントロール**できるようレッスンが計画されています。

本講演会では、セカンドステップの**デモレッスンを体験**できます。次年度開催予定の養成研修会に参加することで、教材を用いた現場での実施が可能になります。まずは一緒にセカンドステップを体験してみませんか？



2024

7/6 (土) 13:30~15:30

(受付13:00~)

場所	けんしん郡山文化センター4階第3会議室 (郡山市堤下町1番2号)
対象	セカンドステップに興味のある 教員・保育士・幼稚園教諭・施設職員等
定員	30名程度

詳しくは裏面をご覧ください >>>

お申し込み・お問い合わせ



親と子のサポートセンターふくしま(担当:能渡)

TEL: 024-524-0005

FAX: 024-524-0006

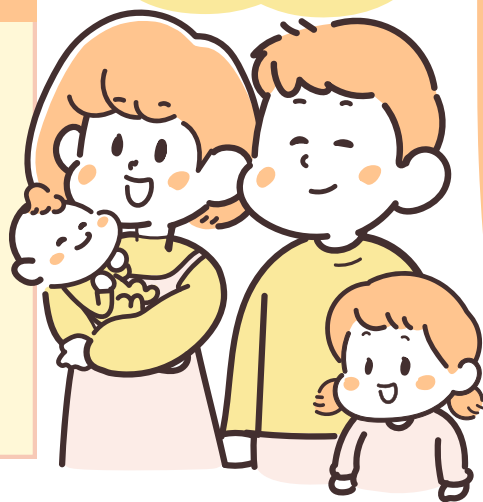
〒960-8505 福島市本町2-10福島学院大学駅前キャンパス4階

親と子どものふくふくトレーニング トレーナー養成講座

受講料
無料

「親と子どものふくふくトレーニング」とは

行動心理学の理論背景をもとに、**子どもの問題行動を減らし、望ましい行動を効果的にしつけられるスキル**を、経験的に体得するプログラムです。本研修は「親と子どものふくふくトレーニング」を、養育者や子どもに関わる仕事をしている**専門家に伝えるトレーナーを養成する講座**です。



日時

2025

2/22^土 23^日 24^{月・祝} の3日間

22日（土） 10：00～17：30（9：30～受付）

23日（日） 9：30～17：30

24日（月・祝） 9：00～17：00 ※3日間連続での受講をお願いいたします。

講師

佐藤 早苗氏（福島県総合療育センター）

安部 郁子氏（福島大学人間発達文化学類
親と子のサポートセンターふくしま）

会場

福島県男女共生センター（福島県二本松市郭内一丁目196-1）

定員

家庭支援を行っている方

（子育て支援センター職員、児童相談所職員、保健師など）

10名程度

お申し込みは
裏面から



一般社団法人 福島県子どもの発達支援協会
親と子のサポートセンターふくしま

TEL：024-524-0005 FAX：024-524-0006（担当：仁科）

この事業は「ふくしま子どもの心のケアセンター事業」として福島県から委託を受けて実施します。

ふくしま子どもの心のケアセンター 東日本大震災後の 浜通りの子どもたちへの支援報告会 ～“未来”へつながる支援のために～

令和7年

3/23 日

会場

杉妻会館「百合の間」

(福島県福島市杉妻町3-45)

時間

13:00～16:30

(12:30～会場受付)

あいさつ

福島県保健福祉部こども未来局長 吉成宣子

第1部 浜通りの子どもたちへの支援の取り組み

「福島県のこれまでの子どもたちへの支援について」

福島県保健福祉部こども未来局児童家庭課主幹

熊坂和美

「乳幼児から学齢期の発達のための支援について」

ふくしま子どもの心のケアセンターセンター長

(福島学院大学副学長・福祉学部福祉心理学科教授) 内山登紀夫

「学齢期の発達支援～学校支援～」

ふくしま子どもの心のケアセンター副センター長

(宮城県子ども総合センター附属診療所 精神科医師) 鈴木勝昭

第2部 シンポジウム“未来”へつながる支援のために

コーディネーター 安部郁子 ふくしま子どもの心のケアセンター副センター長
(国立大学法人福島大学地域デザイン科学研究科特任教授)

パネリスト 武内雅之氏 (富岡町立富岡小学校長・中学校長)
児島大寛氏 (富岡町福祉課子育て支援係保健師)
遠藤隼人氏 (基幹相談支援センターふたばセンター長)
新妻陽子氏 (児童発達支援センターわくわくキッズ管理者)
本田智春 (ふくしま子どもの心のケアセンター主任精神保健福祉士・公認心理師)

コメンテーター 前田正治氏 ふくしま心のケアセンター所長
(福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座教授)

内山登紀夫 ふくしま子どもの心のケアセンターセンター長
(福島学院大学 副学長・福祉学部福祉心理学科教授)

主催：福島県、ふくしま子どもの心のケアセンター

福島県委託「ふくしま子どもの心のケアセンター事業」

【問い合わせ先】親と子のサポートセンターふくしま ☎ 024-524-0005

一般社団法人福島県子どもの発達支援協会

ふくしま子どもの心のケアセンター 2024 年度活動報告書

発行日：2025 年 3 月 31 日

所在地：〒960-8505 福島県福島市本町 2 番 10 号

(福島学院大学 福島駅前キャンパス 4 階)

HP：https://oyakoko-f.org

TEL：024-524-0005

FAX：024-524-0006

印刷所：株式会社阿部紙工



